

管理運営評価シート(令和5年度)

施設名称	村上市郷土資料館等	評価対象年度	令和 5 年度
指定管理者名	公益財団法人イヨボヤの里開発公社	所管課	生涯学習 課
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日(5年間)	評価者(課長)	平山 祐子

1 令和5年度の実績

(1)事業実績

利用実績	郷土資料館・若林家住宅・歴史文化館入館者数13,255人、三の丸記念館利用者数1,877人、武家入館者数3,516人
サービス向上の取組	①ホームページやSNSの充実 ②関係職員による改善案の提示と対応 ③続日本100名城スタンプの設置や各種カードの配布により来館機会の創出

(2)管理経費

(単位:千円)

区分		前々年度 (3年度)	前年度 (4年度)	当該年度 (5年度)	合計	備考
収入	指定管理料	49,160	50,975	52,132	152,267	基本協定額: 266,089 千円
	利用料金				0	
	事業収入				0	
	自主事業収入	125	21	88	234	
	その他				0	
	収入合計 ①	49,285	50,996	52,220	152,501	
支出	人件費	21,536	21,529	21,725	64,790	
	福利厚生費	3,527	3,770	3,903	11,200	
	事務費	6,472	6,217	5,957	18,646	
	管理費	17,625	19,459	20,547	57,631	
	水道光熱費	2,989	4,141	4,343	11,473	
	修繕料	593	247	861	1,701	
	使用料・リース料	1,234	1,061	1,046	3,341	
	手数料・保険料	324	587	533	1,444	
	委託料	12,485	13,423	13,764	39,672	
	事業費				0	
	自主事業経費	213	74	93	380	
	その他				0	
	支出合計 ②	49,373	51,049	52,225	152,647	
収支差額(①-②)		▲ 88	▲ 53	▲ 5	▲ 146	

2 共通評価項目

(記入者)自己評価…指定管理者 所管評価…施設担当課

評価項目	判断基準	自己評価	所管評価	備考 (◎、△、×のときは評価内容、その他 特記事項があれば記入)
公の施設の平等な利用の確保	事業内容等は、一部の市民や団体に対して、不当に利用を制限又は優遇するものではない。	○	○	
	社会的弱者の公平利用について、配慮されている。	○	○	
情報公開、個人情報保護の取組	情報公開、個人情報保護に係る措置が適切に講じられている。(書類の保管、社員への周知等)	○	○	
	情報公開、個人情報保護について、内部規約の整備や実施基準等が考慮されている。	○	○	
従業員の労働条件など法令遵守による管理運営	適切な労働条件や運営体制が確保されている。	○	○	
	関係する法律、条例等を理解し遵守している。	○	○	
業務仕様書の水準を満たしたサービスの提供	公の施設の管理運営にふさわしい理念やコンプライアンスの取組等、透明性の高い運営を行っている。	○	○	
	施設の設置目的を理解し、仕様書に指定された業務を実施している。	◎	○	
創意工夫によるサービス向上と自主的な経営努力	サービス向上のための取組を行っている。	○	○	
	利用者の要望や意見を把握し、その対応方法が的確になっている。	○	○	
	施設やサービスの利用促進・拡大を図るため、適切な広報や的確な手法を行っている。	◎	○	
	自主事業の実施方針及び内容は施設の設置目的を果たすものとなっており、効果的に実施されている。	◎	◎	今年度は地元の団体と協力した自主事業が再開され、積極的な地域交流や文化伝承など、施設の役割を果たしていた。
経営努力による経費削減の取組	安全な管理体制及び事業実施に対して、適切な収支決算となっている。	○	○	
	削減の取組がサービス低下につながらず、バランスが図られた事業内容となっている。	○	○	
	管理効率化等による余剰分を新たなサービス展開による施設効用の拡大につなげている。	○	○	
	新たな収入の創出等、経営の安定化に向けた独自の取組を行っている。	○	○	
適正な人員配置や人材育成の取組	適切な人員や有資格者の配置、勤務体制、労働管理となっている。	○	○	
	人材育成に対する積極的な取組が講じられており、職員研修等の人材育成に取り組んでいる。	○	○	
安定的な財務基盤による管理運営	指定期間で安定的な管理運営を行う財務基盤を有している。	◎	○	
事件・事故や利用者への対応	苦情、事故、トラブルを防止するための具体策や対処方法は適切である。	○	○	
	利用者の安全確保と緊急時の対応・体制は適切に整備されている。	◎	○	
地域貢献への取組	市内業者の活用や地元雇用の促進など、地域振興に寄与する事業内容である。	○	○	
	地域と連携した事業の実施や、地域活動への参加等による地域貢献に取り組んでいる。	○	○	

◎: 協定等の内容を超える水準で業務を履行している ○: 協定等の内容どおり業務を履行しており適正

△: 協定等の内容に対し、一部不履行がある ×: 協定等の内容に不履行があり改善の必要がある - : 該当なし

3 業務実施上の課題(指定管理者が記入)

(1) 指定管理業務実施上の課題	各施設とも建設からかなりの年数が経過しており、劣化している箇所が目立っている。特に公開中の武家住宅の多くは、茅葺屋根の状態が悪化している。令和5年度は旧岩間家住宅の屋根が改修されたものの、他の武家住宅の茅葺屋根の状態は依然として厳しい状況にあり、早急な対応が必要と思われる。
(2) 課題解決に向けた取組	定期的に茅葺屋根の状況を担当課に報告し葺き替え、差茅の計画的な実施を要望しているとともに、応急処置や日常できる範囲での維持管理を継続的に行っている。
(3) その他	①利用者からの主な意見や苦情、対応策 アンケートの集計結果では窓口職員の接客態度等は「非常に良い」「良い」という回答が全体の88%を占めており、令和5年度は職員に対する苦情等はなかった。各施設で実施している来館者アンケートはこまめに確認しており、苦情があった場合には早急に対応できるようにしている。 ②その他

4 全体的な評価

(1) 指定管理者の評価	前年に比べ、入館者が増加している。これまで休止していたお茶会などの事業も再開できた。しかしながら「十五夜月見の会」(協力事業)が選者の高齢化により実行委員会が組織できず、実施されないなど、協力者等の高齢化や後継者不在により事業の開催が難しくなっているものも少なくなく、今後の課題となっている。
(2) 施設所管課の評価	前年と比較すると入館者も増加していることから、今後も市民及び観光客の要望や歴史・文化の振興に寄与する企画展示を行っていただきたい。また、協力事業については、開催内容および方法を検討し、継続的な事業となるよう努めてもらいたい。
(3) 次年度の管理運営に対する指導事項等(施設所管課)	今後さらに入館者数が増加していくことも考慮し、適切な施設管理と親切丁寧な対応を心がけ、利用者の満足度向上を目指して管理運営を行ってもらいたい。また、近年の状況に合ったPR方法や企画展示について検討するとともに、郷土資料館が貴重な地域資料の保存や市民の郷土史学習の拠点として最大限活用されるよう運営に取り組んでもらいたい。